

極秘

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会は検閲班(内線2171-2174)。
3. その他本電の取扱等に関する照会は調査班(内線8169)に連絡あり。

電信写

主管課緊急処理用

大 政事外外儀官  
大 務務 典房  
臣秘官官審審長長

ア経外査即 博  
大 大 察位 代  
使使研審準 表

対文会厚情オ  
括 審察人電在儀警史

外 報 官  
参 参 際内外

参 一 二

参 政 保 对 旅 外

ア 審 地 中 東  
参 北 東 西

参 一 二 保 地

参 一 二

参 西 ソ 洋  
西 東

ア ア

次 経 途 博  
参 経 漁 国

参 経 エ 国  
安 二

参 海 参 準

参 政 国 開  
参 調 理

参 協 協

参 経 人  
参 軍 社

科 科 原

参 情 折 調  
企 安

総 番 号 R198111

主 管

月 3日  
平成 2年 10月 3日

エ ジ プ ト 発  
本 省 着

近 1

外 務 大 臣 殿

山 田 大 使

日・エジプト首のう会談(第一回：湾がん情勢)

第1828号 極秘 大至急

往電第1826号別電1

会談冒頭の小人数会合はその場でのムバラク大統領の指示により急拠テータ・テート会談(ただし先方のみシドキ首相同席)に切りかえられた形で行われ湾がんをめぐる情勢のみを取り上げたところ概要取りまとめ次の通り(先方シドキ首相、通訳ツルオカ)。

1. 冒頭総理より、本件問題解決に向けてのアラブ世界内外でのエジプトのき然たる対応を高く評価するとともにムバラク大統領のたく越した指導力にけい意を表する旨述べたところ「ム」大統領より次のとおり述べた。

(1) 本件に対してき然たる対応を示すことは問題が原則にかかわる以上当然である。サダム・フセインが加入していたアラブ協力機構では常に内政不干渉の原則を確認していたが、その加盟国がクウェイトに侵攻するとは思ってもよらなかった。

(2) 自分(ム)は、侵攻1週間前にサダムフセインを訪問し、明確な形でクウェイトを侵略する意図はあるかと質問したところ「サ」は、おびやかすだけであつて侵略は考えていない旨明白に応えた。国家元首たるものがウソをつくとは思わなかつたのでクウェイト侵攻を知つた時には本当におどろいた。しかも「サ」はムバラクに対して侵略しないと述べていないとし、かつその証人もいるなどと述べているが前述のとおり「サ」からは明白な応えを得ておりまたそれは2人だけの会談においてなされた発言であるので証人などいるはずもない。(総理より、人間の信義にもとる行為であると付言。)「サ」は真実を述べずにモハメットの末えいを称している。

(3) 自分(ム)にアラブ協力機構参加を盛んに働きかけたのはかつての友人であるフセイン・ジョルダン

## 電信写

国王である。自分（ム）は同機構への参加からエジプトが得るものが何もない上に、他の参加国がジョルダン及びジョルダンと異常に近い関係を有するイラク更にイエメンであるため、サウデイに対して十分な説明を行わなければ対サウデイ包囲もうとの疑念を持たせることとなる旨警告を発していた。しかしフセイン国王が余りにも執ように求めるので自分（ム）も最終的には同機構に参加したが、その結果判明したのはまさに自分（ム）の前記警告が真実であつたことである。

（4）自分（ム）は、フセイン国王には深くきずつけられている。同国王はジョルダン国民に対しエジプトがジョルダンの立場を損つている、フセイン国王の訪米をひぼうしている、過去2年間エジプトはジョルダン経済をばう害している等の根もはもないことをささやき、自らの失政の責任を他国に押し付けんとした。

（5）このようなことを総理に述べるのは残念でならないがフセイン国王はごまかしにほん走する人間である。ナセル、サダトもフセイン国王にはくるしめられた。ナセルは余りのことに公衆の面前でフセイン国王をぶじよくした。サダトに対してはフセイン国王は、キャンプデーヴィッドの合意（CDA）間近となつた時点でロンドンから極秘りに電話を入れ、ジョルダンも参加したい旨伝えて来たことがあつた。ところがその後CDAがアラブの大勢の前で不評であると分かる何の断りもなくロンドンからアンマンにもどり、ついでにはCDAを批判しエジプト非難に加わつた。

（6）イラクのクウェイト侵略直後、フセイン国王はサダムの指示により自分（ム）を訪問し、や半まで話し合つた。国王はエジプトが反イラクの立場を取らないように主張したが、自分（ム）は24時間の時間を与えることとした。すなわち、自分（ム）から、イラクのクウェイト撤兵及び正統政権の復帰の2点をサダムから取り付けられたら自分（ム）はイラクの面子を救うために限定的なアラブサミットを召集する用意がある旨述べたところフセイン国王は直ちにバグダッドへ向かつた。よく日の午後アンマンにもどつたフセイン国王から電話でサダムは限定サミットに合意した旨連絡して来たので自分（ム）から2つ問題について了解はとれたかと質したところ国王はそのような詳細は議論しなかつたと答えた。自分（ム）は議題も不明なサミットなど召集できないと述べておいた。

（7）フセイン国王は当初からサダム・フセインがクウェイトから撤兵するとは思つていなかった。全ての行動は予定通りだつたのだ。フセイン国王は、サダムからサウデイの油でんを入手した際には大きな分け前を受け取る約束を得ていたのである。

## 電信写

2. 以上に対し総理より次のとおり述べられた。

(1) お話をうかがい本件が原則にそつて解決されるべきであるとの感を強くした。

(2) わが国の立場はイラクのクウェイト侵攻及びへい合は認められず、クウェイト正統政府が回復され、イラクにいる外国人の人質が即時に解放されねばならないというものであり、そのため国連安保理決議の完全実施を求めている。またわが国として成し得るこうけんとして、しゅうへん国援助を行うこととし、ジョルダンにも経済援助を供与する考えであるが大統領に異論ありや。

3. これに対し大統領より次の通り述べた。

(1) 自分（ム）はジョルダン国民に何等反感を有しておらず国民のためになる経済援助は支持する。

(2) 自分のジョルダン批判は専らフセイン国王に向けられたものである。

(3) フセイン国王はおだやかな物ごしで来客をてい重にもてなすのでだまされやすいが、国王の発言に真実はない。

(4) （総理より自分とブッシュ大統領の間でもフセイン国王をわれわれの側に引寄せることが望ましいとの見解の一致があつた旨しようかいしたところ）自分（ム）はジョルダンの立場を害する考えはない。フセイン国王の一かん性に欠けた対応を非難しているのみである。

(5) なお、あくまでもなお書きとして述べたい（BY THE WAY）が、エジプトはもはや債務は増やせないで日本の対エジプト支援はかん大な条件のものをお願いしたい。

4. 次いで総理より、サダムにクウェイトから撤兵させるには経済制裁を強化していくことが効果的と考えるかどうかと質問されたのに対し大統領は以下のとおり述べた。

(1) サダムは思い込みのきつい人間であり国際関係にも明るくない。米国と戦争をしても最終的には勝利を収めるとは合理的人間であればだれも言わない。

(2) 経済制裁を強化することは戦とうを回避することにつながるだろう。経済制裁によりサダム政権のほうかいも可能だからである。

(3) 他方、サダムは2つの致命的誤りをおかした。1つはイランとの間の戦争で得たものを全て投げ出してイランとの和平を求めたこと。2つはイランと完全な和平に至る前にクウェイトに侵攻したこと。8年間の対イラン戦争で得たものを全て失つてはクウェイトからの撤兵はサダムにとって国内で自さつするに等し

## 電信写

い。他方クウェイト占領を維持すれば多国籍軍から空爆されよう。いずれもサダムにとり困難である。

5. これに対し総理より、国連総会でのブッシュ大統領の演説に対して与えられた世界的支持を見ても国際社会は一致してサダムに反対であり、今後とも国際的圧力をにんたい強く維持して行くことが重要であり、そのため国連の役割が重要性を増している旨述べた。

6. 次いで大統領より、エジプトとしても軍事的圧力を強化するため現在既にサウデイ入りしている1個機こう師団に加え更に1機こう師団を近々サウデイに派遣する予定である旨述べた。(了)